

まちに、生きものを呼ぼう

自然と暮らすまちづくりハンドブック



所沢市自然共生連絡会

.

目次

はじめに.....	1
まちに生きものを呼ぼう.....	2
この本の目的と対象.....	4
(1) この本の目的.....	4
(2) この本の対象.....	4
(3) この本の構成.....	6
第1部 身近な生きものを知ろう.....	7
1-1.所沢の自然.....	8
1-2.所沢で見られる生きもの.....	10
【所沢生きものカード】の使いかた.....	16
第2部 生きものを呼ぼう.....	19
2-1.生きものを呼ぶにあたって.....	20
(1) 自然のつながりを考えよう.....	20
(2) 生きものを呼ぶ時に気を付けたいこと.....	21
2-2.林の生きものを呼ぼう.....	22
(1) 林のつながりを考えよう.....	22
(2) 呼びたい生きものを考えよう.....	24
(3) 林の生きものを呼ぶ方法.....	25
2-3.草地の生きものを呼ぼう.....	30
(1) 草地のつながりを確認しよう.....	30
(2) 呼びたい生きものを考えよう.....	32
(3) 草地の生きものを呼ぶ方法.....	33
2-4.水辺の生きものを呼ぼう.....	36
(1) 水辺のつながりを確認しよう.....	36
(2) 呼びたい生きものを考えよう.....	40
(3) 水辺の生きものを呼ぶ方法.....	41
2-5.生きものを呼んだあとには.....	44
(1) 生きものにやさしい管理をしよう.....	44
(2) 自然や生きものについての意識を高めよう.....	45

2-6.取り組みを進めるために	46
(1) 専門家に相談する	46
(2) 多くの人に参加してもらう	46
(3) 予算を確保する	46
参考資料.....	47
(1) 生態系ネットワーク	47
(2) 生物多様性	48
(3) 外来種・在来種・園芸種	49
(4) 学校ビオトープ・学校林	49

はじめに

まちに生きものを呼ぼう

所沢市の郊外には、狭山丘陵の森や、武蔵野の平地林、柳瀬川・東川などの川、丘陵の湿地などがあり、そこには様々な生きものがすんでいます。

かつては、まちなかにも雑木林やはらっぱがあり、子どもたちは、家や学校のすぐそばで虫取りをしたり、自然の中で遊んだりすることができました。ところが、今ではまちなかの森や草地は減り、子どもたちが身近に自然と触れ合うことができる機会が減ってしまいました。

自然の中で活動は、こどもたちの心身の健全な成長にとって大切なものであり(コラム参照)大人が、こどもたちに手渡す大切な財産と言えます。

また、今後、日本全体の人口が減少していく中で、地域の個性に誇りと愛着を持ちながら、心豊かに暮らすことのできるまちづくりが大切になっています。自然は、地域の個性の源であり、これからのまちづくりにおいてますます重要性が高まっています。

森やはらっぱが減ってしまったまちなかでも、学校や公共施設、公園、家庭の庭などで工夫をすれば、生きものを呼びもどすことができます。

子どもたちや将来世代、そして大人の世代が心豊かに暮らせまちにするために、まちにいきものを呼び戻しましょう。

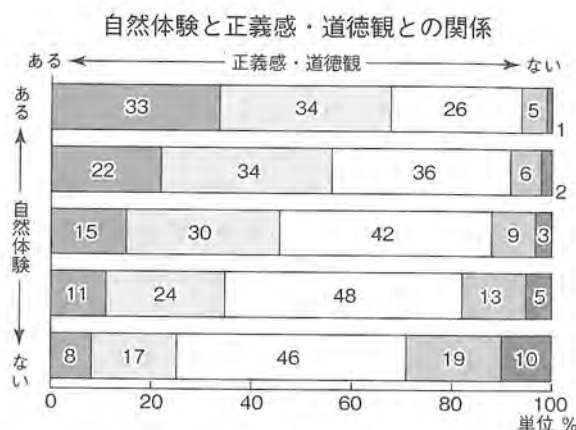


子どもの自然体験と心の成長

文部省が、「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」、「太陽が昇るところや沈むところを見たこと」といった自然体験の豊富さと、「友達が悪いことをしていたら、やめさせる」、「バスや電車で席をゆずる」といった道徳観・正義感の度合いの関係を調べたところ、自然体験が豊富な子どもほど道徳観・正義感が身につけている傾向が結果として示された。

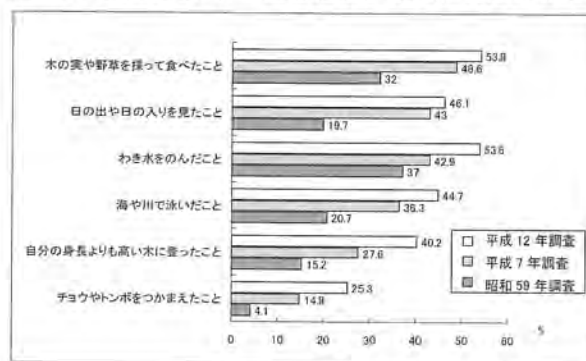
医学分野からは、自然にふれ自然の中にある雑菌に対する免疫を少しずつ身につけておかないと、軽くてすむ病気が大病になる恐れがあるとの指摘がなされている。また、脳や神経は外からの刺激を受けて発達するが、そのピークは14歳といわれ、さらによりよい発達のためにはより多様な刺激が必要との指摘もなされている。刺激がないと、子どもの「感性」や「創造力」、さらに人間関係、病気、ケガなどから自分の心と身体を守る「自己防衛能力」が発達しないという。また、変化に富む自然の中で遊びまわって全身を動かすことは、運動能力を高め、状況の変化に応じて危険を避ける能力を培うことにも効果的と考えられている。

一方、川村学園女子大学の齋藤哲郎教授の「子どもたちの生活状況や自然・生活体験等に関する調査」により、子どもたちの自然体験の機会が、調査開始時点の昭和59年当時すでにかなり少なかったが、近年一層少なくなりつつあることが明らかになっている。平成12年の調査では、「木の実などを採って食べたことがない」53.8%、「日の出日の入りを見たことがない」46.1%、「自分の身長よりも高い木に登ったことがない」40.2%であった。昭和59年、平成7年時の同調査と比較して、その割合が軒並み高くなっている。



出典：文部省(1998年)「子供の体験活動等に関するアンケート調査」

子どもたちの自然体験（「一回も経験がない」と回答した割合）



出典：齋藤哲郎(2000年)「子どもたちの生活状況や自然・生活体験等に関する調査」

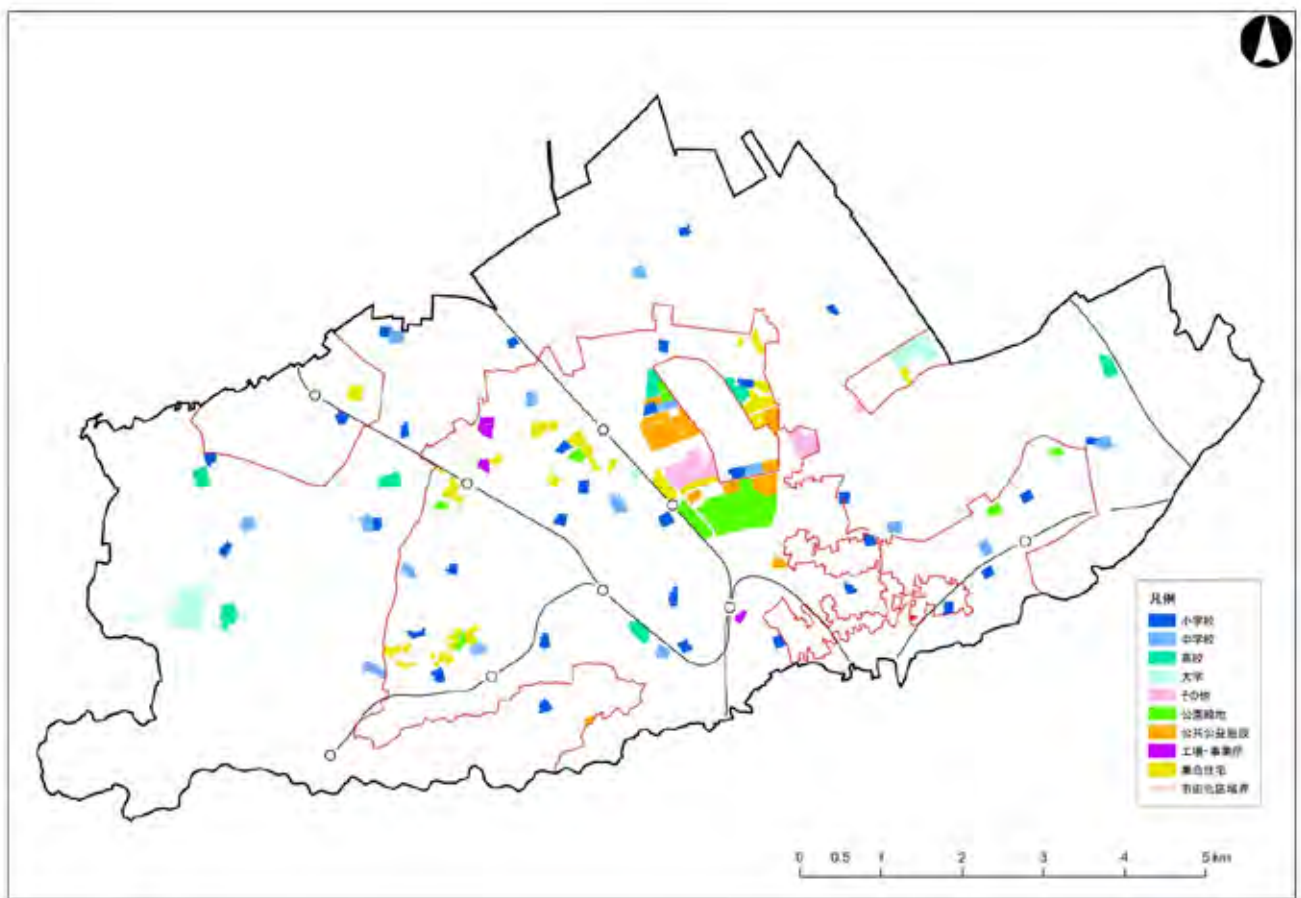
この本の目的と対象

(1) この本の目的

この本は、所沢市内の様々な場所で、生きものがすみやすい場所を守り、つくり、つなぐことによって、自然と触れ合いながら心豊かに暮らすことができるまちをつくることを目指し、多くの方に取り組みを進めていただくことを目的としています。

(2) この本の対象

この本は、学校、集合住宅、企業敷地、公園、公共施設などの比較的広い敷地を持つ施設での取り組みを想定して書かれています。ほかにも、家庭で本書を参考に庭づくりを行うことによって、小鳥やチョウ、トンボ、バッタなどの生きものが訪れる庭にすることができます。



この本で主な対象としている施設



学校(所沢小学校)



学校(所沢中学校)



学校(所沢中央高校)



学校(日本大学芸術学部所沢校舎)



集合住宅(市営住宅並木団地)



企業敷地(西武鉄道ビル)



公園(北野公園)



公共施設(市民文化センターミュージズ)

(3) この本の構成

生きものを呼ぶためのステップとして、まずは、楽しみながら生きものへの興味を育み、次に、呼びたい生きものを考え、これを生きものを呼ぶための取り組みへとつなげていただきたいと考えています。

この本の構成は、身近な生きものに興味を持ってもらうための「第1部 身近な生きものを知ろう」と、生きものを呼ぶための方法を示した「第2部 生きものを呼ぼう」の2部構成になっています。

第1部 身近な生きものを知ろう

ステップ1

身近な生きものに興味を持つ



第2部 生きものを呼ぼう

ステップ2

呼びたい生きものを考える



ステップ3

身近な生きものを呼ぶために取り組む

第1部 身近な生きものを知ろう



所沢市内の区域は、市街化区域(まちなか)と市街化調整区域(郊外)に分けられています。
 下の地図を見ると、郊外には、狭山丘陵や狭山湖、平地林などの広い自然地が残されていますが、まちなかには航空公園駅西側のまとまった緑(航空記念公園や防衛大学校などの緑)を除いて、自然が少ないことがわかります。



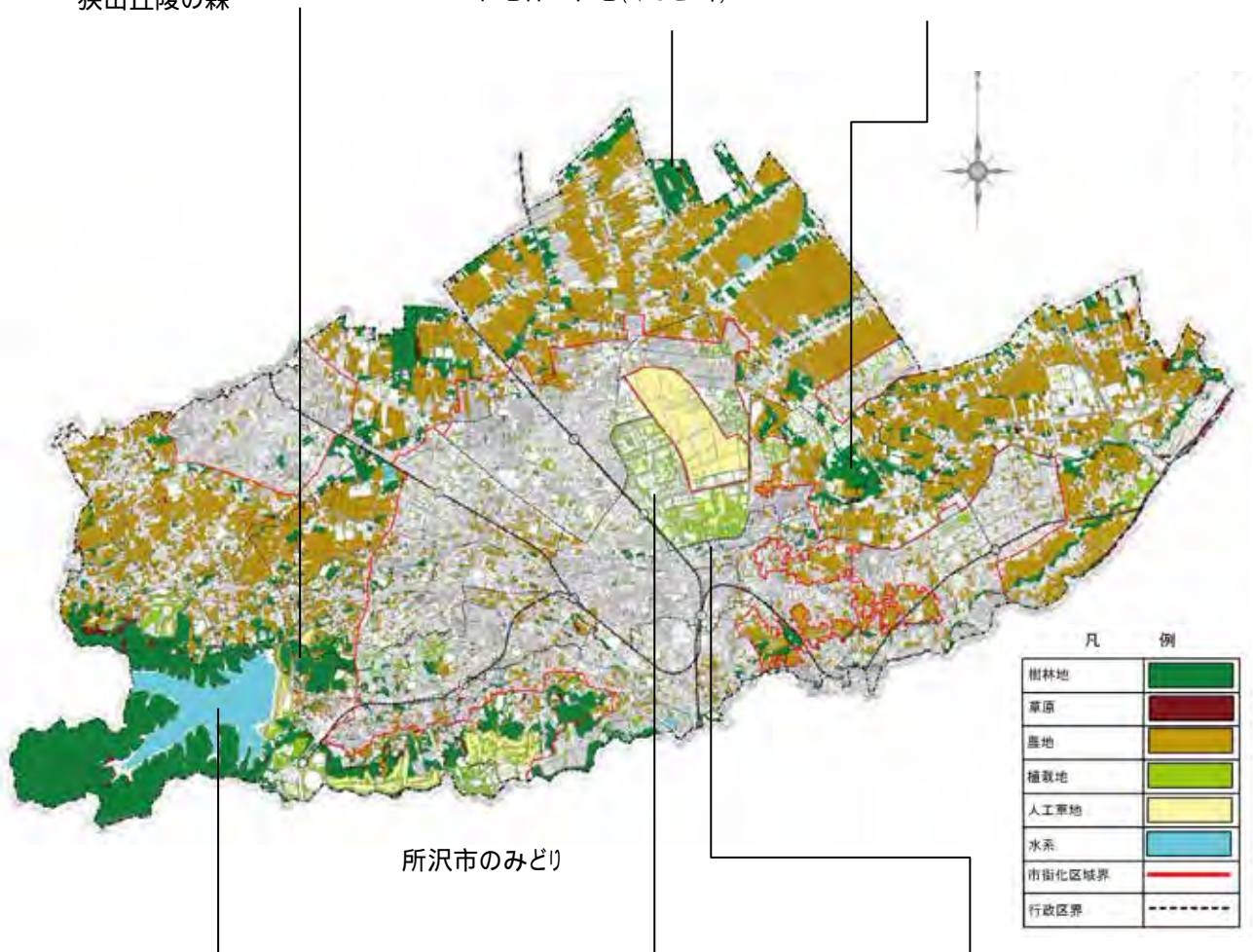
狭山丘陵の森



平地林と草地(くぬぎ山)



平地林(所沢カルチャーパーク)



狭山湖



公共施設の樹林



神社の樹林

1-2.所沢で見られる生きもの

身近にみられる生きものに興味を持ってもらうために、所沢市で見られる代表的な生きものを選び、【所沢生きものカード】をつくりました。

カードは、主な生息環境(林、草地、水辺)によって色分けをし、「見やすさ(レア度)」「主に見られる場所」「見られる時期」「特徴」を示しています。

見やすさ(レア度)

まちなかでも見やすい生きもの(探せばいるかも)

まちなかでも、よい環境があれば見られる生きもの(なかなか見られない)

豊かな自然があると見られる生きもの(見られたらすごい)



所沢市で見られる代表的な生きもの(所沢生きものカードの動物)

	探せばいるかも(52種)	なかなか見れない(35種)	見れたらすごい(17種)
哺乳類	アズマモグラ:モグラ塚(草地)一年中	タヌキ:足跡・ためフン(樹林)一年中 ノウサギ:足跡・フン(草地)一年中 イタチ:足跡・フン(水辺)一年中	キツネ:足跡・フン(樹林・草地)一年中
鳥類	カルガモ(池・川)一年中 コサギ(水辺)一年中 キジバト(樹林)一年中 コゲラ(樹林)一年中 オナガ(樹林)一年中 シジュウカラ(樹林)一年中 ツバメ(市街地・草地)春～夏 ヒヨドリ(樹林)一年中 ウグイス(樹林)一年中 メジロ(樹林)一年中 ムクドリ(市街地・草地)一年中 ツグミ(樹林・草地)秋～冬 ジョウビタキ(樹林)秋～冬 スズメ(市街地)一年中 ハクセキレイ(市街地・水辺)一年中 カワラヒワ(樹林・草地)一年中	キジ(草地)一年中 カッコウ(樹林・草地)春～夏 カワセミ(池・川)一年中 モズ(草地)一年中 カケス(樹林)秋～冬 ヤマガラ(樹林)一年中 ヒバリ(草地)一年中 エナガ(樹林)一年中 キセキレイ(水辺)一年中 イカル(樹林)一年中 ホオジロ(草地)一年中 アオジ(樹林)秋～冬	ツミ(樹林)一年中 オオタカ(樹林・草地)一年中 ノスリ(樹林・草地)秋～冬 フクロウ(樹林)一年中 アオバズク(樹林)春～夏
爬虫類	カナヘビ(草地)春～秋	ニホンヤモリ(人家)春～秋 シマヘビ(草地)春～秋 アオダイショウ(樹林・人家)春～秋 ヤマカガシ(水辺・草地)春～秋	イシガメ(水辺)春～秋 ヒガシニホントカゲ(草地)春～秋
両生類	ニホンアマガエル(水辺・草地)春～秋	アズマヒキガエル(樹林・水辺)春～秋	ニホンアカガエル(水辺)春～秋 シュレーゲルアオガエル(水辺)春～秋
チョウ	アゲハ(樹林)春～秋 アオスジアゲハ(樹林)春～秋 キタキチョウ(樹林・草地)春～秋 モンシロチョウ(草地)春～秋 ベニシジミ(草地)春～秋 ヤマトシジミ(草地)春～秋 キタテハ(草地)春～秋	アカシジミ(樹林)夏 ミズイロオナガシジミ(樹林)夏 ゴマダラチョウ(樹林)春～夏	ウラナミアカシジミ(樹林)夏 オオムラサキ(樹林)夏 ジャノメチョウ(草地)夏～秋
バッタ	ショウリョウバッタ(草地)夏～秋 オンブバッタ(草地)夏～秋 トノサマバッタ(草地)夏～秋 エンマコオロギ(草地)夏～秋 ツクムシ(草地)夏～秋 クビキリギス(草地)春～秋	ヒガシキリギリス(草地)夏～秋	スズムシ(草地)夏～秋 クツワムシ(樹林・草地)夏～秋
トンボ	アジイトトンボ(池)春～秋 ギンヤンマ(池)春～秋 シオカラトンボ(池)春～秋 ウスバキトンボ(池)春～秋 コシアキトンボ(池)夏～秋 ショウジョウトンボ(池)春～秋 アキアカネ(池)夏～秋	チョウトンボ(池)夏～秋 ハグロトンボ(流れ)夏～秋 オニヤンマ(流れ)夏～秋	キイトンボ(池)夏～秋
セミ	ニイニゼミ(樹林)夏 アブラゼミ(樹林)夏 ミンミンゼミ(樹林)夏 ツクツクボウシ(樹林)夏	ヒグラシ(樹林)夏	
カマキリ	オオカマキリ(草地)夏～秋 コカマキリ(草地)夏～秋 ハラビロカマキリ(樹林)夏～秋	チョウセンカマキリ(草地)夏～秋	
コウチュウ	カナブン(樹林)夏 コアオハナムグリ(草地)春～秋 ナミテントウ(樹林・草地)春～秋 ナナホシテントウ(草地)春～秋	カブトムシ(樹林)夏 コクワガタ(樹林)夏 ノコギリクワガタ(樹林)夏 ヤマトタムシ(樹林)夏～秋	シロスジカマキリ(樹林)春～夏
ハチ	クロオオアリ(草地)春～秋	ニホンミツバチ(樹林・草地)春～秋	
ナナフシ		ナナフシ(樹林)夏～秋	
クモ	ジョロウグモ(樹林)秋		

主な生息環境

- 林
- 草地
- 水辺

凡例:種名(主に見られる場所)見られる時期

赤字は、3年～6年の教科書に出ている生きもの

<p>ウスハイトトンボ</p>  <p>全長がうばいけしんじ色をしたトンボ。黒いところが舌で、冬を過ごしにくいので、毎年晩の頃から増えるよ。</p>	<p>ヨシアイトトンボ</p>  <p>黒にまみれている舌と白のはっきりした背縁のトンボ。穂けのみのオス同士がよくけんかしているよ。</p>	<p>ショウジョウトンボ</p>  <p>水等が深い池にまみっています。オスは背縁がたつと背縁の真っ直ぐになり、とてもきれいだよ。</p>	<p>アキアカネ</p>  <p>一面よく見るアカトンボの仲間。オスは秋になると羽が赤くなるよ。夏の間は池にいて、秋に空へ飛んできます。</p>	<p>ニイニイゼミ</p>  <p>雑木林で一週りて動き始めるよ。「アーーーー」と鳴くよ。あじがらには葉がついています。</p>	<p>アブラゼミ</p>  <p>はねが茶色い大きなゼミ。「ジーッジーッ」と大きな声で鳴くよ。羽の形でもよく見られます。</p>
<p>ミンミンゼミ</p>  <p>【ミンミンミンミン】と大きな声で鳴くよ。名前が鳴き声からついたんだ。</p>	<p>ツクツクホウシ</p>  <p>一面高く鳴き始めるゼミ。「オーンツクツク、オーンツクツク」と鳴くよ。名前が鳴き声からついたんだ。</p>	<p>カオカマキリ</p>  <p>緑の舌のくまの舌にすむ大きなカマキリ。カマのあたる足のつけ根が黄色をしているよ。</p>	<p>コカマキリ</p>  <p>草葉にすむ小さなカマキリ。カマの内側に棘があるよ。背は全身がこげ茶色をしています。</p>	<p>ハブヒロカマキリ</p>  <p>水の生えているところによく見られるカマキリ。他のカマキリより体の幅がひろいのが特徴だよ。</p>	<p>ユアオハナムグリ</p>  <p>形はカブトンに似ているけど、色が白い点や線があります。いろいろな花にやっつきて蜜をなめているよ。</p>
<p>オミナントウ</p>  <p>はねの模様はいろいろ。赤い点が7つあるのが一番多いけど、1つあるものや他に黒い点がいっぱいあるものもいるよ。赤い点の数がアブラムシが多いところにいるよ。</p>	<p>オミナントウ</p>  <p>背中に黒い点が7つ。オミナントウと同じく、アブラムシが多いところにいるよ。</p>	<p>カナブン</p>  <p>顔が丸くて平べったいコナブン。雑木林にまみっていて腐葉に集まるよ。</p>	<p>ツロオアリ</p>  <p>家のまわりや庭園にたくさんいる大きなアリ。夏をつくる働きアリや卵を運ぶ女王アリはみんなメスアリだよ。</p>	<p>ショロウグモ</p>  <p>黄色や黒い網がきれいなクモ。木と木の間に大きな巣を作るよ。真ん中にある大きなクモはメスで、巣のはしに小さなオスがいますよ。</p>	<p>トコろん</p>  <p>好きな食べ物は、畑にアブラムシ、トコろん、お団子だよ。</p>

まちなかでも、よい環境があれば見られる生きもの（なかなか見られない）

4
家や学校のまわりを
探してみよう！
身近な生きもの
●●●●●●●●●●
★ 身近な生きもの ★
★ 見られたい ★

<p>ノウサギ</p>  <p>朝したばかりの朝に活動が活発で夕方になるとうとうとウトウトと寝て、夜になると静かになる。</p>	<p>イタチ</p>  <p>林や畑はらわすめがけに、身辺をよく見回す。おとなや幼体の小さな足跡をさがしてね。</p>	<p>タヌキ</p>  <p>夜間生活しています。夜間に畑や田んぼに侵入して、お芋やアズキをくわっているよ。</p>	<p>イシ</p>  <p>「クーン クーン」と大きな声で鳴くよ。産卵時に卵は黒いよ。卵を産む前は黒いよ。</p>	<p>カッコウ</p>  <p>「カッコウ」と鳴くのは親鳥。卵には他の鳥のツクリをたたくついでに産卵します。</p>	
<p>モズ</p>  <p>ツバのような方が羽のくちばしを長く、羽や小鳥を捕らえるよ。羽には「モズモズ」と「カサカサ」という音がするよ。</p>	<p>ヒヨドリ</p>  <p>空を飛んでいくと大きな声でさえずります。またの低い場所が大好き。</p>	<p>キオジロ</p>  <p>「アッ アッ」といって鳴くよ。またの低い場所を好むよ。林のへりや道のそばにすんでいます。</p>	<p>カワセミ</p>  <p>水辺の石や土で隠れている。小魚を捕らえる。空の近くを飛ぶよ。林のへりや道のそばにすんでいます。</p>	<p>キセキレイ</p>  <p>黄色い顔と黒い胸の鳥よ。産卵時に「チンチンチン」と鳴くよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>カケス</p>  <p>黒く長い口でカサカサの音を出して「シューシュー」といって鳴くよ。ツクリのついでに産卵します。</p>
<p>ヤマガラス</p>  <p>産卵や木の葉を食べます。かたい木の葉を食べて上子に渡すことができるよ。</p>	<p>エナガ</p>  <p>小さな白い林の鳥の仲間よ。「ジュリッジュリッ」と鳴くよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>イカル</p>  <p>黄色いくちばしが目立ちます。「チンチンチン」と鳴くよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>アオシ</p>  <p>公園や庭にもやってきます。少し低い木の枝やツツと鳴くよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>シマヘビ</p>  <p>道や川に2本の黒い線があるからシマヘビ。へども自然の鳥よ。捕らえないでね。</p>	<p>アオライショウ</p>  <p>道や川に2本の黒い線があるからシマヘビ。へども自然の鳥よ。捕らえないでね。</p>

5

<p>ヤマカガシ</p>  <p>水辺の畔や、水にもぐれるよ。黒い線が特徴だよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ニホンヤモリ</p>  <p>壁や木や草などに張りついて生活しています。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>アズマヒキガエル</p>  <p>春から夏にかけて水辺に集まって卵を産むよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>アカシジミ</p>  <p>はね全体がオレンジ色のきれいなシジミチョウ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ミスシロオナガシジミ</p>  <p>葉の裏にすくよ。はねの裏が黒いよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ゴマダラチョウ</p>  <p>はねの裏と白の木の葉の裏に黒い線があるよ。またの低い場所を好むよ。</p>
<p>ヒカシキリキリシ</p>  <p>池や川にすんでいます。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>チョウトンボ</p>  <p>池や川にすんでいます。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ハクロトンボ</p>  <p>池や川にすんでいます。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>オニヤンマ</p>  <p>池や川にすんでいます。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ヒグラシ</p>  <p>池や川にすんでいます。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>チョウセンカマキリ</p>  <p>木や草にすくよ。またの低い場所を好むよ。</p>
<p>カボトムシ</p>  <p>木や草の根元にすくよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>コクワガタ</p>  <p>木や草の根元にすくよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ノコギリクワガタ</p>  <p>木や草の根元にすくよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ヤマトタマムシ</p>  <p>木や草の根元にすくよ。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ニホンミツバチ</p>  <p>花や蜜を採ります。またの低い場所を好むよ。</p>	<p>ナナフシ</p>  <p>木や草の根元にすくよ。またの低い場所を好むよ。</p>

豊かな自然があると見られる生きもの（見られたらすごい）

6

<p>トビ</p>  <p>森は簡単には見えない。空を飛ぶ姿は、空を渡る鳥の姿。空を飛ぶ姿は、空を渡る鳥の姿。空を飛ぶ姿は、空を渡る鳥の姿。</p>	<p>ノスリ</p>  <p>木にとまってじっとしているのは、獲物を狙っている。木にとまってじっとしているのは、獲物を狙っている。</p>	<p>ツミ</p>  <p>ハトよりも大きな鳥。ハトよりも大きな鳥。ハトよりも大きな鳥。</p>	<p>オオタカ</p>  <p>森の王者。ハトやカラスを捕まえるには、広くて豊かな自然が必要なんだ。</p>	<p>フクロウ</p>  <p>「フクロウ ネーネー」音には、森の守り神の姿。森の守り神の姿。森の守り神の姿。</p>	<p>アオバズク</p>  <p>青葉が茂れば鳴く。青葉が茂れば鳴く。青葉が茂れば鳴く。</p>
<p>ヒガシニホシトカゲ</p>  <p>鱗はつやつやと光っている。鱗はつやつやと光っている。鱗はつやつやと光っている。</p>	<p>イシガメ</p>  <p>コンクリートの歩道は苦手。コンクリートの歩道は苦手。コンクリートの歩道は苦手。</p>	<p>ニホシアカガエル</p>  <p>1月から3月に産卵。1月から3月に産卵。1月から3月に産卵。</p>	<p>シレーケルアマガエル</p>  <p>アマガエルの仲間。アマガエルの仲間。アマガエルの仲間。</p>	<p>ジャノメフウ</p>  <p>スズメに似ている。スズメに似ている。スズメに似ている。</p>	<p>ウツミアカシジミ</p>  <p>はねは白と黒の模様。はねは白と黒の模様。はねは白と黒の模様。</p>
<p>オオムツリキ</p>  <p>はねを広げると、10センチ以上。はねを広げると、10センチ以上。はねを広げると、10センチ以上。</p>	<p>スズムシ</p>  <p>たけのこを食べて。たけのこを食べて。たけのこを食べて。</p>	<p>ワケムシ</p>  <p>木の葉を食べて。木の葉を食べて。木の葉を食べて。</p>	<p>キイトトンボ</p>  <p>水辺の多い場所。水辺の多い場所。水辺の多い場所。</p>	<p>シロシカミキリ</p>  <p>水辺にすむ。水辺にすむ。水辺にすむ。</p>	<p>トコロ人</p>  <p>好きな食べ物は、栗。好きな食べ物は、栗。好きな食べ物は、栗。</p>

【所沢生きものカード】の使いかた

【所沢生きものカード】の使いかたを示します。ほかにもいろいろな使いかたを考えてみてください。

まずは

シートから切り取る

カードは数枚が厚紙にプリントされたシートになっています。まずは、シートを切って、カードにしてみましょう。

校庭や、学校の周りで見つけた生きものを紙や地図に貼る

校庭や学校の周り、家の周りで見つけた生きものを、見つけた人の名前と一緒に大きな紙や地図に貼ってみましょう。



見られる場所や、動物の種類、見られる季節等で分ける

見られる場所（林・草地・池・川等）や、動物の種類（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類）、見られる季節等によってカードを分けてみましょう。

カードケースに入れれば、簡単な図鑑になります。



トランプとして遊ぶ

(星ひとつ)のカードは 52 枚あります。(星ふたつ) (星3つ)のカードの合計も 52 枚です。これはトランプの枚数(ジョーカーを除く)と一緒にです。

カードの左上と右下には白く空いた場所があります。ここに♥♠♦♣と2~10、A(エース) Q(クイーン) J(ジャック) K(キング)を書きこんで、トランプとして遊びましょう。ジョーカーはトコロんです。

(星ひとつ) (星ふたつ) (星3つ)の中から 52 枚を選び、オオタカ、フクロウのような「食う食われる」の関係の上位にいる生きものをK(キング)にするのもいいかもしれません。

ステップアップ

生きものを詳しく調べる

カードには、生きものの説明が書かれていますが、皆さんに興味を持っていただくためのもとも簡単な説明です。1人1種類、担当を決めて、図鑑やネットで詳しく調べてみましょう。上手に整理すれば、りっぱな図鑑ができます。



新しいカードをつくる

身近な生きものを調べると、カードになっていない生きものが見つかると思います。そうした生きものを図鑑やネットで調べて、白紙のカードに記入し、オリジナルのカードを作ってみましょう。

学校に呼びたい生きものを考える

学校や学校の周りの生きものがわかったら、学校に呼びたい生きものを考えてみましょう。学校にいなくても、近くで見られる生きものであれば、ちょっとした工夫で、学校にやってくるかもしれません。

生きものを呼ぶ方法は、「第2部 生きものを呼ぼう」で詳しく説明しています。



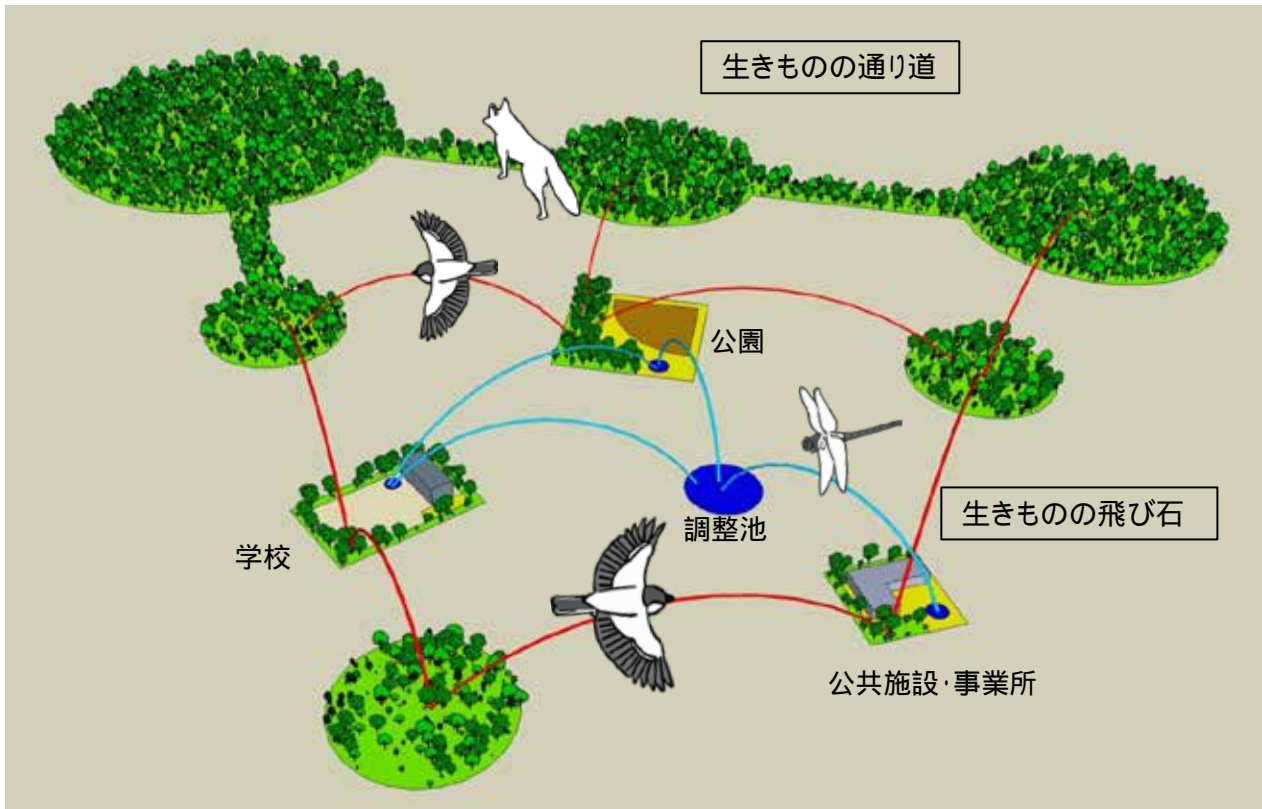
第2部 生きものを呼ぼう



2-1.生きものを呼ぶにあたって

(1) 自然のつながりを考えよう

学校等に生きものを呼ぶときに、周りに生きものの通り道や飛び石があると生きものがやってきやすくなります。また、学校等で生きもののすみかをつくと、生きものの通り道や飛び石が増えて、地域全体の自然の向上に役立ちます。



自然のつながり

学校等に生きものがやってくる可能性を検討したり、学校等の取り組みが、敷地内だけではなく地域の自然の向上に役立つことを知るために、敷地の周りの自然のつながりを確認してみましょう。

確認方法については、「2-2.林の生きものを呼ぼう」「2-3.草地の生きものを呼ぼう」「2-4.水辺の生きものを呼ぼう」に示しています。

(2) 生きものを呼ぶ時に気を付けたいこと

学校等に生きものを呼ぶ取り組みは、世界中の国々で行われている「生物多様性の保全」(資料編参照)の一環として行うものです。次の点に気を付けながら「生物多様性の保全」の基本的な考え方に沿って行うようにしましょう。

特定の生きものばかりを増やさない

本来の自然では、様々な生きものが食う食われる等の関わり合いながら、バランスを保って生きています。特定の生きものが増えると、このバランスが崩れて、地域の自然全体に悪影響を与える可能性があります。生きものに餌を与えたり、放流をするなどして、特定の生きものを増やすことは避けましょう。

生きものを持ち込まない

所沢の地域本来の自然を守るために、海外や日本の他の地域から生きものを持ち込まないようにしましょう。既に植えられている外来種や園芸種の樹木をすぐに在来種に植え替えることは難しいと思われませんが、施設の改修などで樹木の植え替えなどの際には、外来種・園芸種からふるさとの樹木である在来種に樹種を変えるように検討してください。(資料編(4)外来種・在来種・園芸種 参照)

生きものがすみやすい環境をつくり、周辺から自然に生きものがやってくるようにする

上記2点を実現するために、生きものがすみやすい環境をつくり、周辺から生きものが自分の力でやってくるようにしましょう。

2-2.林の生きものを呼ぼう

(1) 林のつながりを考えよう

所沢 ECO-MAP を使って、敷地のまわりの林のつながりを確認しましょう。
マップには、次の内容を示しています。

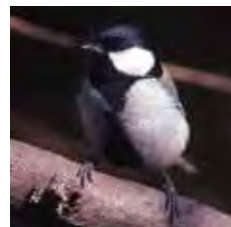
樹林

木が生育している場所

拠点 / サブ拠点

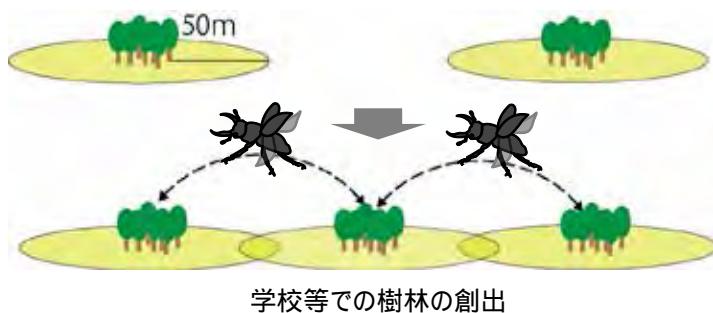
拠点：樹林が特に多く、特に多くの小鳥や昆虫などがすむ可能性がある区域

サブ拠点：樹林が多く、多くの小鳥や昆虫などがすむ可能性がある区域



樹林から 50mの範囲

この範囲がつながってれば、コクワガタ等が移動しやすい

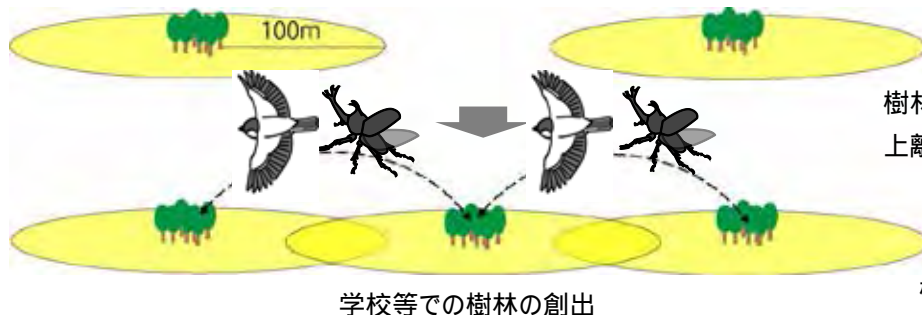


樹林と樹林の距離が 100m以上離れているため移動が難しい

樹林と樹林の距離が 100m以下になり移動しやすい

樹林から 100mの範囲

この範囲が連続していれば、小鳥やカブトムシ等が移動しやすい



樹林と樹林の距離が 200m以上離れているため移動が難しい

樹林と樹林の距離が 200m以下になり移動しやすい

ここに示したコクワガタ、小鳥、カブトムシは、研究などで移動距離がわかっている生きものであるため、林のつながりを見るための目安とした生きものです。これらの生きものが移動できるようにすることで、他の生きものも移動しやすくなります。

(2) 呼びたい生きものを考えよう

まず、カードの林の生きもののうち、(星ひとつ)の生きものから、呼びたい生きものを選びましょう。

現在、学校等の周りに(星ひとつ)の生きものが多くやってきている学校等や、(星ふたつ)の生きものが見られる場所では、(星ふたつ)の生きものを目標にしてもよいでしょう。

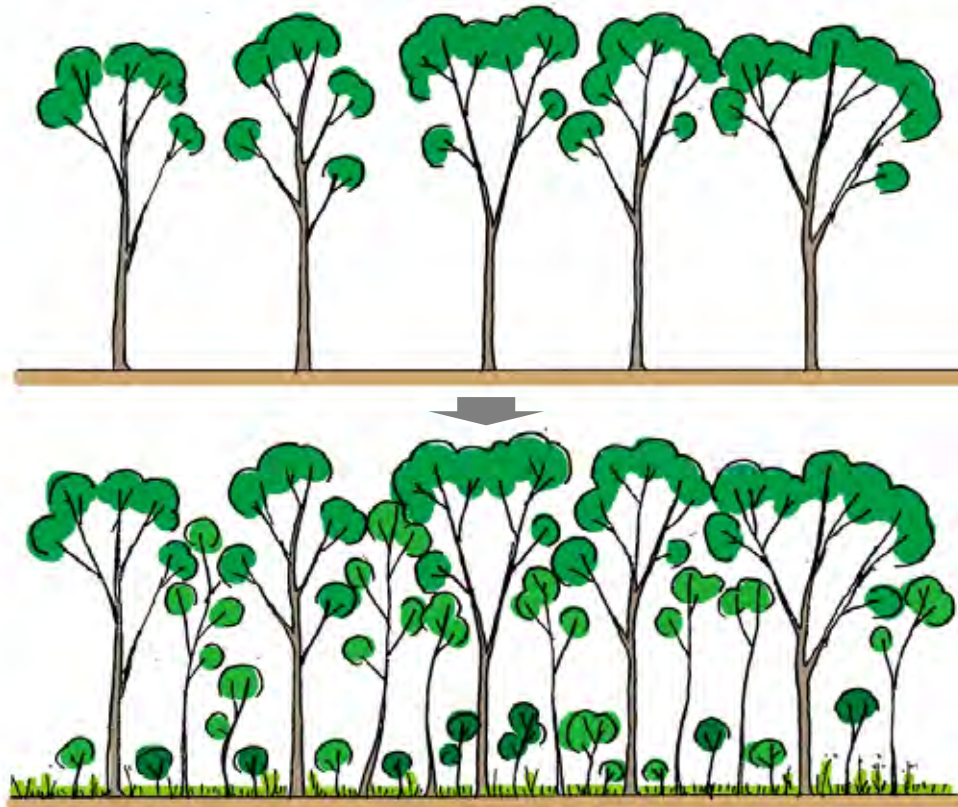
探せばいるかも		呼ぶ方法						備考
鳥類	キジバト コゲラ オナガ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ツグミ ジョウビタキ カワラヒワ							枯れ木に穴をあけて虫をとる ヤブを好む
昆虫類	アゲハ アオスジアゲハ キタキチョウ ニイニゼミ アブラゼミ ミンミンゼミ ツクツクボウシ ハラビロカマキリ カナブン ナミテントウ ジョロウグモ							幼虫はミカンの仲間の葉を食べる 幼虫はクスノキやタブノキの葉を食べる 幼虫はマメの仲間の草や木の葉を食べる 枯れ木に産卵する コナラ・クヌギなどの樹液に集まる
なかなか見られない		呼ぶ方法						備考
哺乳類	タヌキ							森の中のヤブを好む
鳥類	カッコウ カケス ヤマガラ エナガ イカル アオジ							
爬虫類	アオダイショウ							多くの生きものがいることが必要
両生類	アズマヒキガエル							林の近くに池が必要
昆虫類	アカシジミ ミズイロオナガシジミ ゴマダラチョウ ヒグラシ カブトムシ コクワガタ ノコギリクワガタ ヤマトタマムシ ニホンミツバチ ナナフシ							幼虫はコナラ・クヌギなどの葉を食べる 幼虫はコナラ・クヌギなどの葉を食べる 幼虫はエノキの葉を食べる 枯れ木などに産卵する コナラ・クヌギなどの樹液に集まる " " 幼虫は枯れ木の中で育つ バラ科植物・クヌギ・コナラなどの葉を食べる

(3) 林の生きものを呼ぶ方法

方法 様々な高さの樹木や草があるようにする

自然の樹林には、異なる高さの樹木が生えており、樹林の下には様々な種類の草も見られます。このように様々な高さの木や草がある樹林は、植物の種類が多く、さまざまな環境があるため、多くの種類の生きものがすむことができます。

敷地の中に樹林がない場合でも、敷地周辺に植えられている高木の下に、丈の低い樹木を植えたり、草が生えるようにすることによって生きものにとってすみやすくなります。



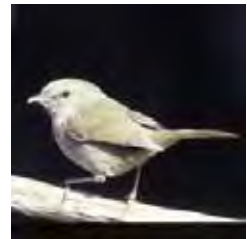
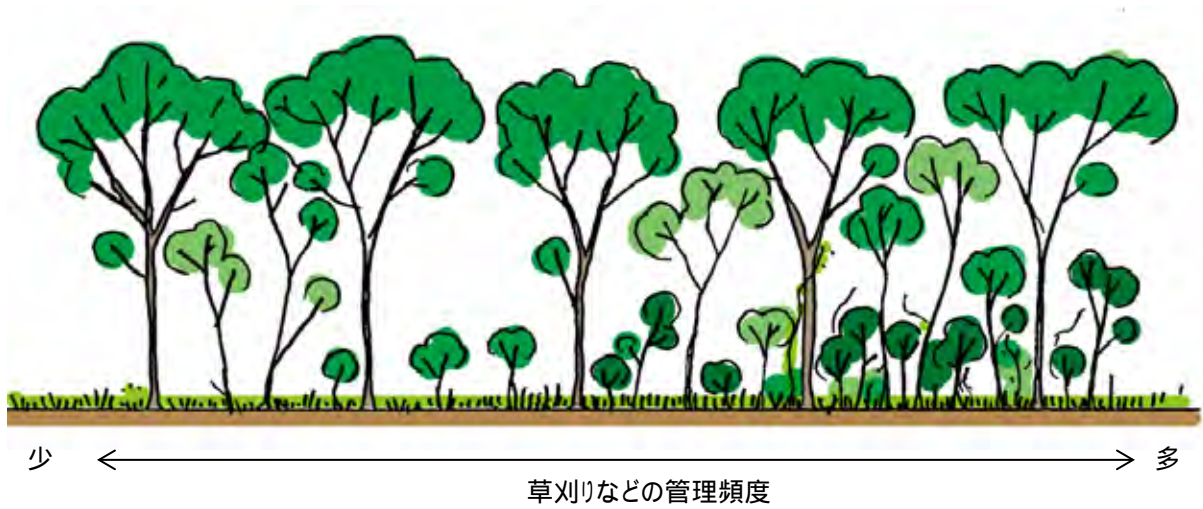
様々な高さの木や草があるように

方法 樹木の種類を増やす

自然の森には、多くの種類の植物が生育しています。昆虫が種類によって異なる樹木や草の葉を食べることを考えると、多くの種類の植物があることは、森の動物を多様にするに関係していることがわかります。そこで、自然の森を参考に、林の種類を増やすようにします。

方法 樹林の中の環境を多様にする

生きものは種類によって好む環境が異なることから、場所によって管理方法を変えて樹林の中の環境を多様にします。



タヌキ() ウグイス()
ヤブを好む生きもの

方法 カブトムシの寝床をつくる

落ち葉を集めて、たい肥をつくり、カブトムシ()の幼虫が育つ場所をつくります。



方法 実のなる木を増やす

鳥が好む実のなる木を植えることで、いろいろな鳥がやってくる可能性があります。

注意) 実のなる木を植える場合には、そればかりを植えるのではなく、自然の樹林を復元する一環として行ってください。

野鳥が好む実のなる木

階層	区分	種名	結実月	餌とする主な鳥
高木	常緑広葉樹	シロダモ	11	ムクドリ・ツグミ・オナガ
		クロガネモチ	11～12	ツグミ・キジ
	落葉広葉樹	ヤマザクラ	6～7	ムクドリ
		ウワミズザクラ	7	ヒヨドリ・オナガ・ムクドリ
		ミズキ	9～10	ムクドリ
		アカメガシワ	9～10	キジバト
		エノキ	10	イカル
		ムクノキ	10	イカル
		イイギリ	10～11	カケス・メジロ・キジバト
アカシデ	10～11	ホオジロ		
亜高木	常緑広葉樹	ヤブツバキ	3	メジロ・ヒヨドリ
	落葉広葉樹	ナナカマド	9～10	ツグミ
		ヌルデ	10～11	ヒヨドリ
低木	常緑広葉樹	ヒサカキ	10～11	ツグミ
		ナンテン	11	ツグミ・ジョウビタキ
		タチバナモドキ	12～2	ツグミ・ジョウビタキ
		ヤツデ	4～5	ツグミ
	落葉広葉樹	ヤマウコギ	7～8	ヒヨドリ・オナガ・ムクドリ
		ガマズミ	9～11	キジ・キジバト
		ムラサキシキブ	10～11	ツグミ・ジョウビタキ
		マユミ	10～11	ツグミ・ジョウビタキ
		ウメモドキ	11～3	ツグミ・ジョウビタキ
ツル植物	常緑広葉樹	キツタ	4～5	ヒヨドリ・ムクドリ
	落葉広葉樹	ツルウメモドキ	10～11	ツグミ・キジ・ジョウビタキ

方法 枯れ木を残す・木を積んでおく

キツツキの仲間であるコゲラ()は、枯れ木の中から虫の幼虫をとって食べます。また、コクワガタ()ノコギリクワガタ()やシロスジカミキリ()、ヤマトタマムシ()の幼虫は倒木などの中で腐食した木を食べて育ちます。

そこで、倒れても安全なように枯れ木を残したり、伐採した樹木を樹林の近くに積んでおくことによって、生きものが増えるようにします。



コゲラ()のために枯れ木を設置した例(森ビル)

方法 種から苗木を育てて植える

生物多様性を守るためには、日本国内であっても他の地域から生きものを持ってくることは好ましくありません。そこで植栽する樹木も付近に自然に生えている樹木から種をとって、苗木を育てて植えるようにします。



種から苗木を育てる



苗木を植える

方法 チョウの食樹を育てる

チョウの仲間は、幼虫の時に食べる草木の種類が決まっていることから（これを、木の場合は食樹、草の場合は食草と言います）チョウの食樹を育てます。

食樹はできるだけ、所沢市に昔から生えている種類から選びます。

チョウの幼虫の食樹

種名	食樹
アカシジミ	コナラ・クヌギ・カシワ・アカガシ・アラカシ
ウラナミアカシジミ	クヌギ・コナラ等
ミズイロオナガシジミ	主にクヌギ、ほかにコナラ・カシワ・アラカシ
ゴマダラチョウ	エノキ
オオムラサキ	エノキ
キタキチョウ	ネムノキ・ハギ類(メドハギ等)
アオスジアゲハ	クスノキ・タブノキ・シロダモ・ヤブニツケイ等
アゲハ	カラタチ・サンショウ・ミカン等



サンショウを食べるアゲハ()の幼虫(上新井小学校)

2-3. 草地の生きものを呼ぼう

(1) 草地のつながりを確認しよう

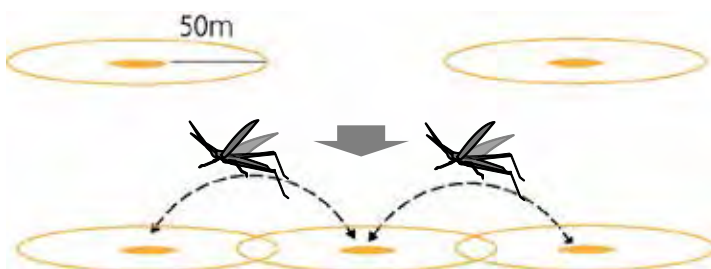
所沢 ECO-MAP を使って、敷地のまわりの草地のつながりを確認しましょう。
マップには、次の内容を示しています。

草地

草地がある場所 (50 m²以上)

草地から 50m の範囲

この範囲が連続していれば、バッタの仲間が移動しやすい



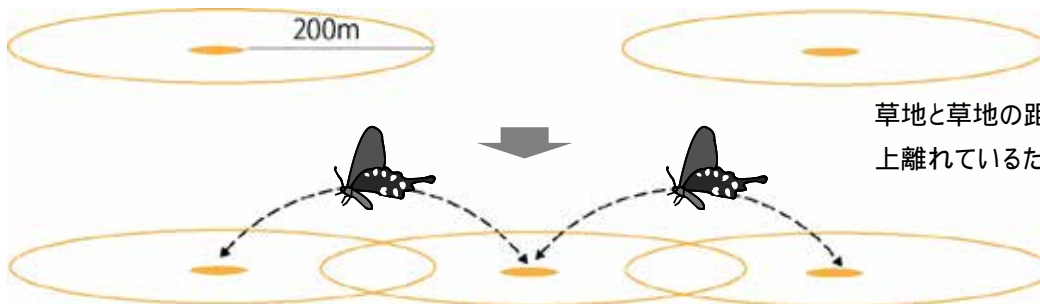
草地と草地の距離が 100m 以上離れているため移動が難しい

草地と草地の距離が 100m 以下になり移動しやすい

草地の創出

草地から 200m の範囲

この範囲が連続していれば、チョウが移動しやすい



草地と草地の距離が 400m 以上離れているため移動が難しい

草地と草地の距離が 400m 以下になり移動しやすい

草地の創出

ここに示したバッタ、チョウは、研究などで移動距離がわかっている生きもので、草地のつながりを見るための目安とした生きものです。これらの生きものが移動できるようにすることで、他の生きものも移動しやすくなると考えられます。

草地のつながりの確認例（清進小学校）

『清進小学校』や「プラザシティ新所沢けやき通り第2」にチョウのすみやすい草地をつくると、西側の草地が多い場所とつながります（図中オレンジ色の点線）。

他に周辺の公園や集合住宅、学校で草地をつくることによって、さらに草地のつながりが充実します。

草地から 200mの範囲
この範囲が連続していれば、チョウ類が移動しやすい

草地から 50mの範囲
この範囲が連続していればバッタの仲間が移動しやすい



清進小から 200mの範囲

『清進小学校』の敷地は、草地のつながりにおいて重要な場所にあることから、チョウやバッタがすみやすい草地をつくることは、所沢市全体の自然のつながりにとって大きな意味があります。

(2) 呼びたい生きものを考えよう

カードの生きもののうち、(星ひとつ)の生きものから、呼びたい生きものを選びましょう。

現在、学校等の周りに(星ひとつ)の生きものが多くやってきている学校等や、(星ふたつ)の生きものが見られる場所では、(星ふたつ)の生きものを目標にしてもよいでしょう。

探せばいるかも			呼ぶ方法					備考
哺乳類	アズマモグラ							
鳥類	ツバメ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ							
爬虫類	カナヘビ							
両生類	ニホンアマガエル							水辺と草地を移動
昆虫類	キタキチョウ モンシロチョウ ベニシジミ ヤマトシジミ キタテハ ショウリョウバッタ オンブバッタ トノサマバッタ エンマコオロギ ツユムシ クビキリギス オオカマキリ コカマキリ コアオハナムグリ ナミテントウ ナナホシテントウ クロオオアリ							幼虫はアブラナ等を食べる 幼虫はスイバ、ギシギシ、ノダイオウを食べる 幼虫はカタバミを食べる 幼虫はカナムグラの葉を食べる
なかなか見られない			呼ぶ方法					備考
哺乳類	ノウサギ							
鳥類	キジ カッコウ モズ ヒバリ							
爬虫類	シマヘビ アオダイショウ ヤマカガシ							
昆虫類	ヒガシキリギリス チョウセンカマキリ ニホンミツバチ							

(3) 草地の生きものを呼ぶ方法

野草の草地をつくる

野草の草地をつくるためには、草が生えやすいように、土を柔らかくするほか、近くからとってきた野草の種をまいたり、株を植えたりします。近くの草地で刈り取った野草を、そのまま持ってきて置いておく方法もあります。



草刈りの回数を変え、草丈に変化をもたせる

草地には、草丈の低い草地や、草丈の高い草地があり、そこに生えている種類もさまざまです。こうした違いは土壌の栄養の多少や、乾湿といった環境の違いのほかに、草刈りの頻度によっても変わってきます。

草丈や草の種類によって、すむ生きものの種類が異なることから、草刈りの頻度を変えて、様々な草地をつくります。



草丈の低い草地
スミレ・カタバミなど

草刈年3回程度
5～6月・8月・10～11月



草丈のやや高い草地
チガヤなど

草刈年2回程度
5～6月・10～11月



草丈の高い草地
ススキなど

草刈年1回程度
10～11月

在来種のツル植物で緑のカーテンをつくる

市内の学校で行われているゴーヤやアサガオなどを用いた緑のカーテンのほかに、在来種の樹木・草を用いて緑のカーテンをつくります。これによって、実を食べに野鳥が訪れたり、花の蜜を吸いに昆虫がやってきます。

プランターなどに近くから種をとってきて撒くほか、外周のフェンスなどにあるツル植物を残す方法が考えられます。

在来のツル植物

	常緑・落葉	種名	生育型	生育条件
樹木	常緑	キヅタ	付着根型	多少、日陰でも生育する 日当たりの良い場所が好ましい "
		テイカカズラ	"	
		ピナンカズラ	"	
	半常緑	スイカズラ	巻つる型	"
	落葉	ナツツタ	巻つる型 + 付着根型	"
		アケビ	巻つる型	多少、日陰でも生育する 日当たりの良い場所が好ましい "
		ツルウメモドキ	"	
サルトリイバラ		"		
エビツル		"		
フジ	"			
草		カラスウリ	"	"
		センニンソウ	"	"
		ヤマノイモ	"	"
		ヒルガオ	"	"
		ヘクソカズラ	"	"
		ヤブガラシ	"	"
		クズ	"	"



学校のフェンスのツル植物(中央小学校)

石積みをつくる

15 cmほどの大きさの石を、高さ 30 ~ 40 cmに積み、隙間をカナヘビ()やヒガシニホントカゲ()などのすみかにします。



カナヘビ()



ヒガシニホントカゲ()



チョウの食草を育てる

チョウの仲間は、幼虫の時に食べる草木の種類が決まっていることから(これを、木の場合は食樹、草の場合は食草と言います)、チョウの食草を育てます。

チョウの幼虫の食草

種名	食草
キタテハ	カナムグラ
モンシロチョウ	キャベツ・アブラナ等
ペニシジミ	スイバ、ギシギシ、ノダイオウ等
ヤマトシジミ	カタバミ
ジャノメチョウ	ススキ・スズメノカタビラ・ノガリヤス等



キタテハ()



ペニシジミ()



ジャノメチョウ()

2-4.水辺の生きものを呼ぼう

(1) 水辺のつながりを確認しよう

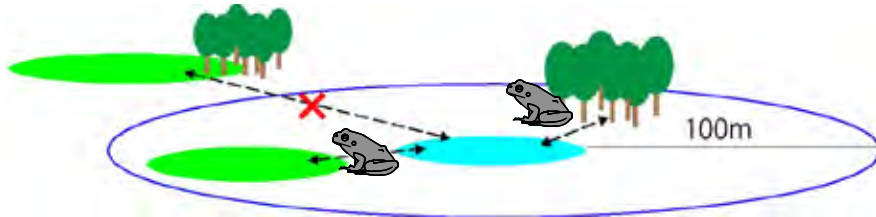
所沢 ECO-MAP を使って、敷地のまわりの水辺のつながりを確認しましょう。
マップには、次の内容を示しています。

【池・湿地】

池・湿地

池・湿地から 100m の範囲

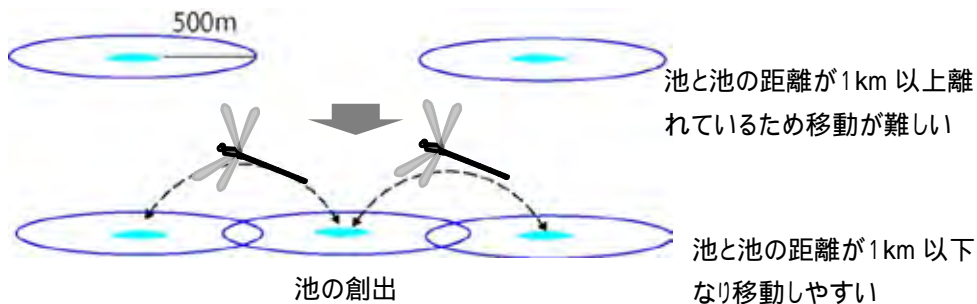
この範囲内であれば、アズマヒキガエルが草地や林へ移動しやすい



池から 100m の範囲の草地や林を保全するとともに、新たに草地や林をつくる

池・湿地から 500m の範囲

この範囲が連続していれば、イトトンボが移動しやすい



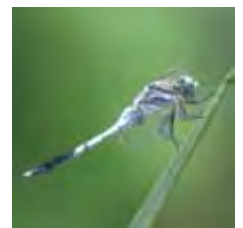
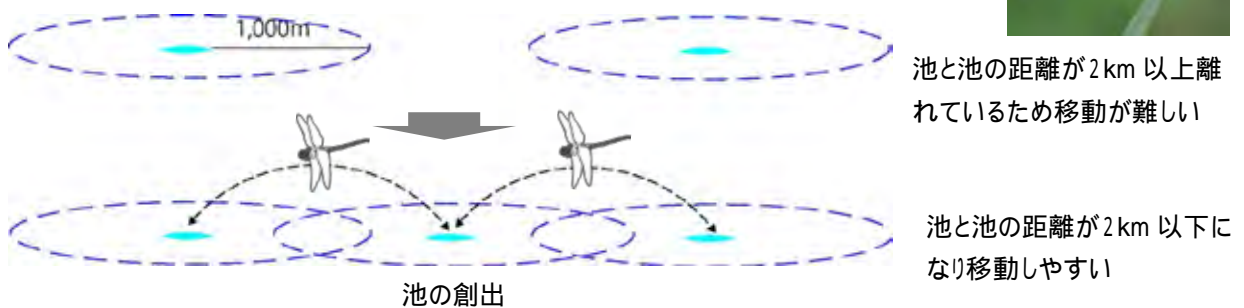
池と池の距離が 1km 以上離れているため移動が難しい

池と池の距離が 1km 以下になり移動しやすい

池の創出

池・湿地から 1,000m の範囲

この範囲が連続していれば、シオカラトンボが移動しやすい



池と池の距離が 2km 以上離れているため移動が難しい

池と池の距離が 2km 以下になり移動しやすい

池の創出

水辺のつながり（池・湿地）の確認例（清進小学校）

『清進小学校』に池をつくると、シオカラトンボなどのトンボが周辺の池から飛んでくる可能性があります。また、池・湿地から 1,000m の範囲がつながり水辺のつながりがつづられます。



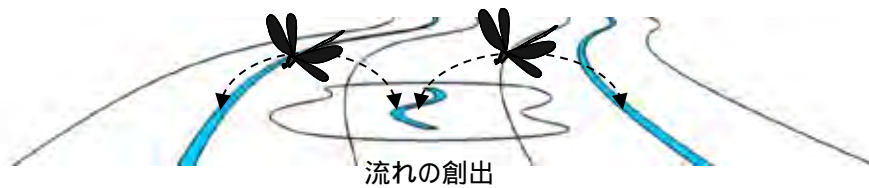
『清進小学校』の敷地は、水辺のつながりに関して重要な場所にあることから、トンボがすみやすい水辺をつくることで、所沢市全体の自然のつながりに貢献します。

【川・水路】

川

川から 100mの範囲

この範囲が連続していれば、ハグロトンボが移動しやすい

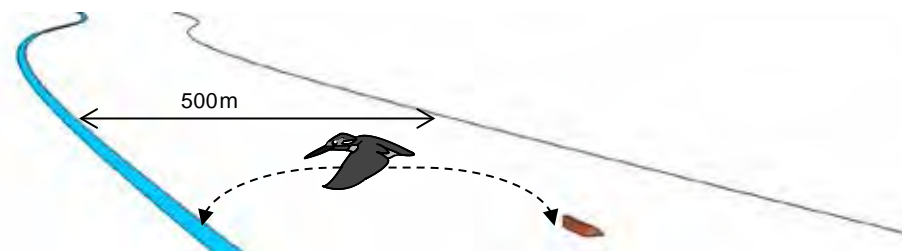


川と川の距離が 100m以上
離れているため移動が難しい

川と川の距離が 200m 以下
になり移動しやすい

川から 500mの範囲

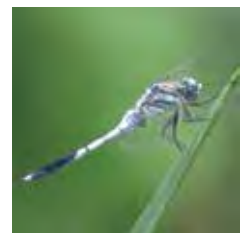
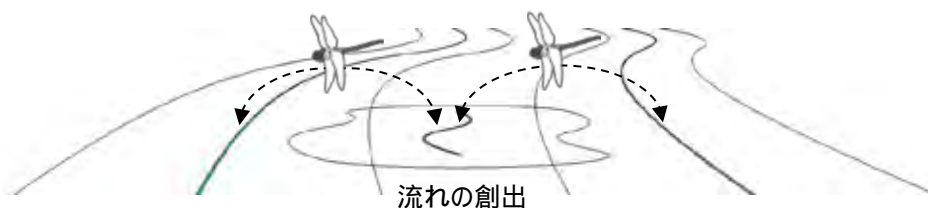
この範囲内であれば、カワセミが巣をつくる可能性がある



カワセミは、土の崖に穴を掘って巣をつくります。川から 500mの範囲に、土の崖があれば、カワセミが巣をつくる可能性があります。

川から 1,000mの範囲

この範囲が連続していれば、シオカラトンボが移動しやすい



水辺のつながり（川・水路）の確認例（清進小学校）

『清進小学校』に流れをつくると、シオカラトンボなどが周辺の川から飛んでくる可能性があります。

川から 100mの範囲
この範囲が連続していれば、ハグロトンボ等が移動しやすい

川から 500mの範囲
この範囲内であれば、カワセミが巣をつくる可能性がある

川から 1,000mの範囲
この範囲が連続していれば、シオカラトンボ等が移動しやすい



『清進小学校』の敷地は、水辺のつながりにおいて重要な場所にあることから、トンボがすみやすい水辺をつくることで、所沢市全体の自然のつながりに貢献します。

(2) 呼びたい生きものを考えよう

カードの生きもののうち、(星ひとつ)の生きものから、呼びたい生きものを選びましょう。

現在、学校等の周りに(星ひとつ)の生きものが多くやってきている学校等や、(星ふたつ)の生きものが見られる場所では、(星ふたつ)の生きものを目標にしてもよいでしょう。

探せばいるかも			呼ぶ方法					備考
鳥類	カルガモ コサギ ハクセキレイ							
両生類	ニホンアマガエル							水辺と草地を移動
昆虫類	アジアイトトンボ ギンヤンマ シオカラトンボ ウスバキトンボ コシアキトンボ ショウジョウトンボ アキアカネ							池に生息 " " " " " "
なかなか見られない			呼ぶ方法					備考
哺乳類	イタチ							
鳥類	カワセミ キセキレイ							
爬虫類	ヤマカガシ							水辺や草地に生息
両生類	アズマヒキガエル							水辺と草地、樹林地を移動
昆虫類	チョウトンボ ハグロトンボ オニヤンマ							池に生息 流れに生息 流れ(溪流)に生息

(3) 水辺の生きものを呼ぶ方法

池や流れをつくる・コンクリートの池や流れを改修する

水辺のつながりの拠点になる池や流れをつくる場合には、次の点に注意しましょう。

水は、雨水を基本にする

水はタンクを設置して雨水をためておき、必要に応じて補給します。渇水期には水道水を供給できるようにしておきます。井戸を掘って水を供給できるようにしておけばより安心です。



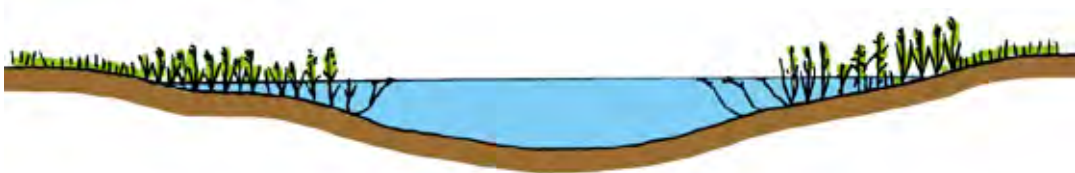
雨水タンク(清進小学校)

岸辺をなだらかにし、水辺の植物が生育するようにする

池の底や岸辺は、防水を行ったうえで土を入れます。岸辺は、陸から水中になだらかに移り変わるようにして、様々な水辺の植物が生育するようにします。岸辺をなだらかにすることは、子どもの安全対策としても有効です。

池の広さが確保できれば、池の中心部を深く(1m程度)して、植物が全体を覆わないようにすると、管理の手間が少なくなります。

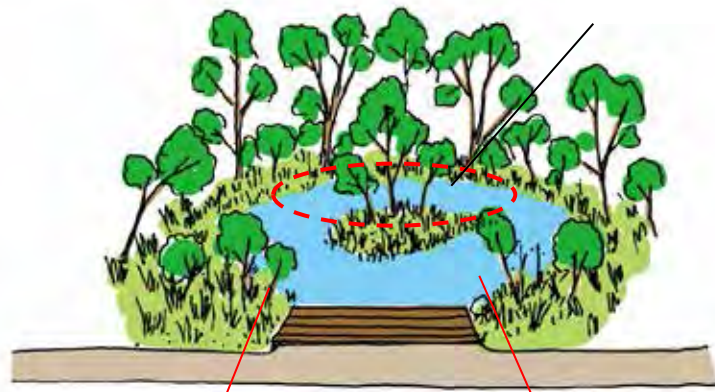
岸辺をなだらかにして植物が生育するように



池に近づく場所を限定する、水辺に生きものの隠れ場所をつくる

池全体を歩道で囲むと、生きものが隠れる場所が少なくなり、また、カエルなどが水辺と陸を行き来しにくくなることから、観察などで池に近づく場所は一部にします。

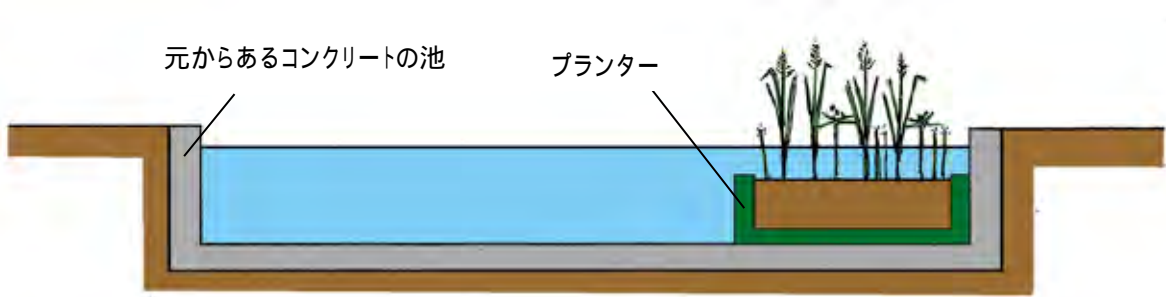
生きものが隠れる場所をつくる



観察等是一部から

コンクリートの池に生きものがすみやすくする

コンクリートの池がある場合、自然に近い池に改修することが水辺のつながりをつくるために最も良い方法ですが、すぐに実施することが難しい場合には、土の入ったプランターを池に設置し、水草を生育させることによって、簡単にトンボなどの生きものが来やすい池にすることができます。



水辺と樹林や草地をセットでつくる

ヒキガエルやアカガエルなど、水辺と樹林や草地を行き来する生きものがいることから、できるだけ樹林と草地をセットでつくります。



カワセミが巣穴を掘る土の崖をつくる

カワセミは、土の崖に穴を掘って巣をつくります。所沢 ECO-MAP に示したように、川から 500m までの距離であれば巣をつくる可能性があるため、土の崖を守ったり、営巣しやすい土の崖を創出したりします。



カワセミを呼ぶために作られた土の崖



プールのヤゴを助ける

プールを使用していない時期に水を張っているとトンボが産卵に訪れます。

6月下旬から5月中旬のプール清掃前に、水を少しずつ抜いて深さ20～30cm程度にし、ヤゴを捕まえます。

捕まえたヤゴは、教室の水槽や池などで飼育します。7月頃にトンボに羽化します。



ギンヤンマ

2-5.生きものを呼んだあとには

(1) 生きものにやさしい管理をしよう

除草剤や殺虫剤を使わない

生きものを呼ぶ取り組みは、生きものと共生するまちづくりを目指しているため、除草剤や殺虫剤は使用しないようにします。自然素材（木酢液、トウガラシ等）を使って虫が来ないようにする方法も考案されているので、検討してみてください。

参考書籍

- ・無農薬で庭づくり オーガニック・ガーデン・ハンドブック（ひきちガーデンサービス 曳地トシ・曳地善治著）

管理を部分に分けて行う

草刈りなどの管理を全面で行うと、そこにすんでいた生きものの行き場がなくなってしまいます。部分的に管理を行うことで、生きもののすみかを確保します。



様子をみながら管理を行う

自然や生きものを対象とした取り組みは、予想どおりにはいかないことがよくあります。そこで、管理の結果自然がどのように変化したかを良く見て、場合によっては管理方法を変えるなど、様子を見ながら管理を行います。

(2) 自然や生きものについての意識を高めよう

樹名板をつける

学校に生えている木について、在来種、外来種、園芸種を区分しながら樹名板を作成しましょう。所沢の自然についての意識を高めることにつながります。



やってきた生きものを調べる

それぞれの場所で、やってきた生きものを調べることによって、生きものへの興味が生まれ、自然のつながりの状況を知ることができるようになります。

2-6.取り組みを進めるために

(1) 専門家に相談する

生きものを呼ぶ取り組みを進めるには、専門的な知識や経験を持った団体に関わってもらうことが望めます。市役所はこうした団体を把握していることから、まずは、市役所に相談をして、これらの団体と連絡をとってもらおうとよいでしょう。

(2) 多くの人に参加してもらう

生きものを呼ぶ取り組みは、多くの人が自分の学校や勤め先、庭等で取り組むことによって、所沢市全体の自然を豊かにするものです。

多くの人に参加していただくためには、取り組みを広く知ってもらうことが大切です。そこで、自然観察等の気軽に参加できるイベントを行ったり、看板やニュースレター等、様々な方法で広報を行ってください。

また、生きものを呼ぶ取り組みは、自然の管理やイベントの運営などで人手がかかることがあります。自治会やPTA、みどりのパートナーなど、様々な団体に声をかけて参加してもらい、取り組みの輪を広げていきましょう。

(3) 予算を確保する

生きものを呼ぶ取り組みを行う場合に、資材や道具を買う予算が必要になることがあります。こうしたの取り組みに使える助成金があるので、これらの活用を検討してください。

主な助成金

1. 学校が申請できる助成金

- ・環境保全整備事業「新規の学校ビオトープづくりに対する助成事業」/ (公財)三菱UFJ環境財団
- ・子供たちの環境学習活動に対する助成事業 / (公財)高原環境財団

2. 活動団体が申請できる助成金

- ・地球環境基金「入門助成」「一般助成」/ (独)環境保全再生機構
- ・環境活動助成 / (公財)イオン環境財団
- ・活動助成 / (一財)セブンイレブン記念財団
- ・普通助成「自然環境の保護、保全及び創出の直接的活動」/ (公財)サイサン環境保全基金

参考資料

(1) 生態系ネットワーク

野生生物の多くは、一つのタイプの生息空間で一生をすごしているのではなく、採食・休息・繁殖、あるいは一日、一年、一生を通じて複数の異なるタイプの生息空間を利用しています。たとえば、ニホンアカガエルは、卵・オタマジャクシの時は、田んぼや湿地などの浅い水辺、子ガエルは草地、親ガエルは林で生活しています。マガモの仲間は、ねぐらとなる池沼と食物をとる草地や農地の間を毎日移動しています。



また、ある生物の集団が孤立すると遺伝的な多様性が失われてしまうため、他の集団との繁殖交流をするために、移動できる範囲内に同じタイプの生息・生育空間が複数存在していることが必要です。さらに、ある生物の生息・生育空間がなくなってしまった場合でも、その生物が移動できる範囲に同じタイプの生息・生育空間があれば、その地域から絶滅する危険を減らすことができます。

このように、生物多様性を守っていくためには、同じタイプの環境や、異なるタイプの環境がネットワークされていることが必要であり、これを生態系ネットワークといいます。

地面を移動する生きもののためには、生息空間を直接つなぐことが必要ですが、鳥やチョウ、トンボなどの飛翔できる生きものについては、生息空間を飛び石状につなぐことも効果があります。

(2) 生物多様性

自然界には様々な多くの生きものがあり、これらは互いに関わり合いながら生きています。国際的な取り決めである、生物多様性条約では、生物多様性をすべての生きものの中に違いがあることと定義し、「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」という三つのレベルがあるとしています。

生態系の多様性

生態系の多様性とは、森林、里地里山、湿地、川、海、干潟など、各地に様々なタイプの自然環境があることをいいます。それぞれの場所には、その自然環境に適応した生態系が成立しています。

種の多様性

種の多様性とは、色々な動植物の種が生息生育しているという状況のことをいいます。地球上に存在する多様な種は、すべてが現在の生態系を支える役割を担っています。種がひとつでも欠けると、微妙なバランスの上に成り立っている生態系全体に影響を及ぼすおそれがあります。

遺伝子の多様性

同じ動植物の種でも、個体や地域によって形や性質・行動などの特徴が少しずつ違うことがあります。例えば、同じゲンジボタルでも発光の周期が、西日本では 2 秒周期、東日本では 4 秒周期と違っており、中間の中部地方では 2、3、4 秒周期が混在しています。これらの違いは遺伝子の違いがもたらすものであり、種内の多様性といえます。こうした遺伝子の違いがあることで、生きものは環境の変化に対応して生き残っていくことが可能になります。

(3) 外来種・在来種・園芸種

人の活動によって、「海外」や「他の地域」から持ち込まれた生きものを「外来種」といいます。これに対して、その地域に昔からいる生きものを「在来種」といいます。その地域の元々の自然の中に「外来種」が入ってくると、「在来種」を食べたり、すみかを奪ったりするなどして、生物多様性に悪影響を与えることとなります。「外来種」のなかには、人の命や健康に影響を与えるものや、農作物を食べるなどして農業へ悪影響を与えるものもいます。

また、鑑賞用に花を目立つようにしたり、葉の色を変えるなどの品種改良をした植物を「園芸種」といいます。動物にも金魚や錦鯉など、人の手によって品種改良された生きものがあります。これらの品種改良された生きものも、自然の中に放されると、外来種とおなじように在来種に悪影響を与える可能性があります。

《自然をつなぐ取り組み》は、地域本来の自然を守ることを目的にした取り組みなので、自然の中の「外来種」や「品種改良された種」は減らしていくようにすることが基本です。外来種や品種改良された種のために《自然をつなぐ取り組み》を行うことはない点に注意をしてください。

(4) 学校ビオトープ・学校林

所沢市内には校庭に「学校ビオトープ」をつくり、子どもが生きものとふれあう場として活用している学校があり、全国的にも高い評価を受けています。

日本では、ビオトープは作られた水辺のみを指すものと誤解されていますが、本当の意味は「生物の生息・生育空間」のことであり、草地や森、湿地、庭など、生きものがすむすべての場所が、ビオトープといえます。ビオトープの発祥地であるドイツではビオトープをつなぐ取り組みである「ビオトープネットワーク」が行われており、これは、基本的に《自然をつなぐ取り組み》と同じものです。

また、所沢市内の学校には、学校の敷地内や敷地外に「学校林」を持っているところがあります。学校林は林のタイプの学校ビオトープと言えます。

所沢市内の学校ピオトープ



所沢小学校



清進小学校



泉小学校



安松小学校

所沢市内の学校林



若松小学校(校外)



若狭小学校(校内)



安松小学校(校外)



並木小学校(校内)

まちに、生きものを呼ぼう

自然と暮らすまちづくりハンドブック

平成 28 年 3 月

所沢市自然共生連絡会

(所沢市・公益財団法人日本生態系協会)

1

家や学校のまわりを
探してみよう！

身近な生きもの



探せばいるかも？

アズマモグラ



見られる場所 草地
見られる時期 一年中

トンネルを掘った土を小山にして「モグラ塚」をつくりまします。畑や草はらをさがしてみよう。

ツバメ



見られる場所 市街地・草地
見られる時期 春～夏

泥を集めてお椀型の巣をつくりまします。校舎や通学路沿いの建物に巣がないかな？

ムクドリ



見られる場所 市街地・草地
見られる時期 一年中

屋根裏などの建物の隙間に巣をつくりまします。秋から冬には大群で樹木に集まって眠るよ。

ツグミ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 秋～冬

ふるさとはシベリア。公園の芝地や畑などにいるよ。

スズメ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 一年中

一番身近な野鳥だけれど実は数が減っています。巣をつくる建物の隙間が少なくなったね。

カワラヒワ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 一年中

街路樹などにコップ型の巣をつくりまします。「キリリ コロロ」と鳴くよ。好物は草の種。

カルガモ



見られる場所 池・川
見られる時期 一年中

特徴はくちばしの先の黄色と白いまゆ。「ゲエゲエ」と鳴くよ。

コサギ



見られる場所 水辺
見られる時期 一年中

シラサギの仲間では黄色い靴下をはいているよ。長いくちばしで小魚を捕まえます。

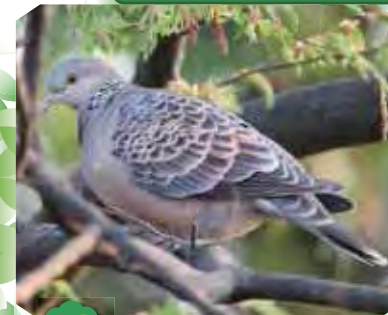
ハクセキレイ



見られる場所 市街地・水辺
見られる時期 一年中

「チチッ チチッ」と鳴き、尾をふるのが特徴。校庭や公園でもよく見られます。

キジバト



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

「デデーポウポウ」と鳴くよ。山ばとも呼ばれています。

コゲラ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

スズメくらいのキツツキだよ。「ギー ギー」とゼンマイがきしむような声で鳴きます。

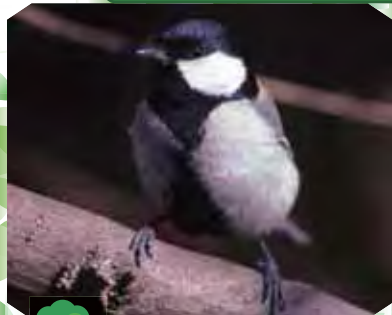
オナガ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

水色の翼と黒のベレー帽がきれいだね。いつも集団でいるよ。「ゲーイ ゲーイ」としゃがれ声。

シジュウカラ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

白いほっぺに黒のネクタイ。シャクトリ虫なら1年に12万匹以上も食べちゃうよ。

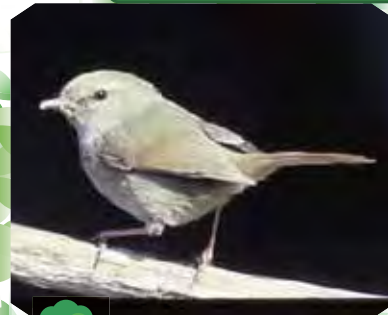
ヒヨドリ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

「ピーヨ ピーヨ」と大きな声で鳴くよ。校庭のサクラの花のみつやさくらんぼも大好物。

ウグイス



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

「ホー ホケキョ」の声はプロポーズとなわばり宣言。茂みや笹やぶが大好き。

メジロ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

黄緑色の体に目のまわりに白いリング。熟した柿の実、サクラやツバキの花の蜜も大好物。

ジョウビタキ



見られる場所 樹林
見られる時期 秋～冬

胸からお腹がオレンジ色はオス、薄茶色はメス。尾をふりながら「ヒッ ヒッ」と鳴くよ。

カナヘビ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

トカゲに間違われるけど茶色でトカゲのような光沢はないよ。草の茂みがすき。

ニホンアマガエル



見られる場所 水辺・草地
見られる時期 春～秋

樹木や草の上によくいます。体の割に大きな声が自慢「クワツクワツクワツ」。

キタキチョウ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 春～秋

はね全体が黄色いチョウで、幼虫はマメの仲間や木の葉を食べているよ。成虫のまま冬を越します。

モンシロチョウ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

幼虫はキャベツの葉を食べるので、畑のまわりの明るい所でよく見られるよ。

ベニシジミ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

道ばたや明るい草地で見られます。はねのオレンジ色の模様は春には鮮やかで、夏には黒っぽくなるよ。

ヤマトシジミ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

道ばたや明るい草地で一番多いチョウ。はねの表面がきれいな青色をしているのがオスだよ。

キタテハ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

草やぶの近くで見られます。はねは黄土色に黒い斑点だけど、よく見ると青い点々がちりばめられていてきれい。

アゲハ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

クリーム色に黒いすじのある大きなチョウ。幼虫はミカンの仲間を食べているよ。

アオスジアゲハ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

林のへりや並木を素早く飛びます。幼虫は学校や公園に植えられているクスノキやタブノキの葉を食べているよ。

ショウリョウバッタ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

たけの低い草地にすんでいる頭のとんがったバッタ。オスに比べてメスはとても大きな体をしているよ。

オンブバッタ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

ショウリョウバッタを小さくして、足を短くしたようなバッタです。ショウリョウバッタよりまばらな草地で見られるよ。

トノサマバッタ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

草がまばらで広い場所にすんでいる大きなバッタ。飛ぶ力が強いので近づくとき遠くまで飛んで逃げるよ。

エンマコオロギ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

枯草や石の下によくいて、「コロコロコロコロ」と鳴きます。顔がちょっとこわみえるのが名前の由来だよ。

ツクムシ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

たけの高い草地にすんでいるキリギリスの仲間です。夜「プツッ」というように鳴くけれど、ちょっと聞き取りづらいかも。

クビキリギリス



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

頭がとんがったキリギリスの仲間です。成虫で冬を越して春～夏に木の上で「ジー」と大きな声で鳴くよ。

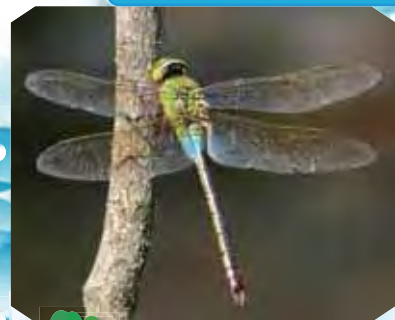
アジアイトトンボ



見られる場所 池
見られる時期 春～秋

田んぼや小さな池のまわりでいちばんよく見られるイトトンボ。オスとメスは色が違い、お腹のさが水色をしているのがオスだよ。

ギンヤンマ



見られる場所 池
見られる時期 春～秋

池のまわりや田んぼの上を飛び回っている大きなトンボ。オスのお腹の付け根の下側が銀色をしているよ。

シオカラトンボ



見られる場所 池
見られる時期 春～秋

池や田んぼでよく見られるよ。オスは時間がたつと体に水色の粉がつくよ。羽化したてのオスやメスを「ムギワラトンボ」と呼びます。

ウスバキトンボ



見られる場所 池
見られる時期 春～秋

全体がうすいオレンジ色をしたトンボ。寒いところが苦手、冬を越せないで、毎年南の方から飛んでくるよ。

コシアキトンボ



見られる場所 池
見られる時期 春～秋

池にすんでいる黒と白のはっきりした模様のトンボ。飛びながらオス同士よくけんかしているよ。

ショウジョウトンボ



見られる場所 池
見られる時期 春～秋

水草が多い池にすんでいます。オスは時間がたつと全身が真っ赤になり、とてもきれいだよ。

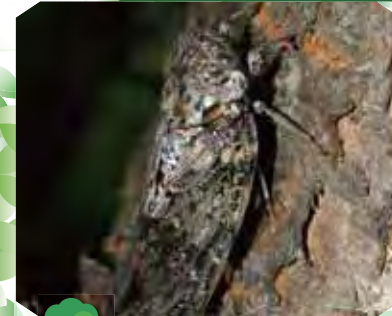
アキアカネ



見られる場所 池
見られる時期 夏～秋

一番よく見るアカトンボの仲間。オスは秋になるとお腹が朱色になるよ。夏の間は山にいて、秋に里へ戻ってきます。

ニイニイゼミ



見られる場所 樹林
見られる時期 夏

雑木林で一番早く鳴き始めるゼミ。「チー————」と鳴くよ。ぬげがらには泥がついています。

アブラゼミ



見られる場所 樹林
見られる時期 夏

はねが茶色い大きなゼミ。「ジージリジリジリ」と大きな声で鳴くよ。町中の公園でもよく見られます。

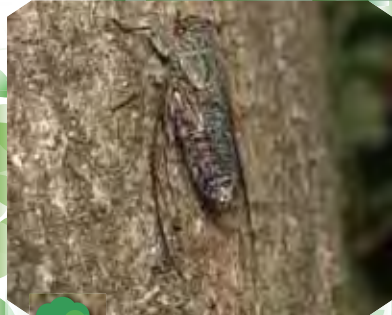
ミンミンゼミ



見られる場所 樹林
見られる時期 夏

「ミンミンミンミー」と大きな声で鳴くゼミ。名前は鳴き声からついたんだ。

ツクツクボウシ



見られる場所 樹林
見られる時期 夏

一番遅く鳴き始めるゼミ。「オーシューツクツク、オーシューツクツク」と鳴くよ。名前は鳴き声からついたんだ。

オオカマキリ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

林の近くの草地にすむ大きなカマキリ。カマのある足のつけ根が黄色をしているよ。

コカマキリ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

草地にすむ小さなカマキリ。カマの内側に模様があるよ。普通は全身がこげ茶色をしています。

ハラビロカマキリ



見られる場所 樹林
見られる時期 夏～秋

木の生えているところでよく見られるカマキリ。他のカマキリより体の幅がひろいのが特徴だよ。

コアオハナムグリ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

形はカナブンに似ているけど、緑色で白い点々模様があります。いろいろな花にやってきて蜜をなめているよ。

ナミテントウ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 春～秋

はねの模様はいろいろ。赤い星が2つあるのが一番多いけど、4つあるものや赤に黒い星がいっぱいあるものもあるよ。食べもののアブラムシが多いところにいます。

ナナホシテントウ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

背中に黒い星が七つ。ナミテントウと同じく、アブラムシが多いところにいるよ。

カナブン



見られる場所 樹林
見られる時期 夏

顔が四角くて平べったいコガネムシ。雑木林にすんでいて樹液に集まるよ。

クロオオアリ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

家のまわりや校庭にもすんでいる大きなアリ。巣をつくる働きアリや卵を産む女王アリはみんなメスアリだよ。

ジョロウグモ



見られる場所 樹林
見られる時期 秋

黄色や赤い模様がきれいなクモ。木と木の間に大きな巣を張るよ。真ん中にある大きなクモはメスで、巣のはじに小さなオスがいるよ。

トコロん



見られる場所 所沢市内全域
見られる時期 一年中

好きな食べものは、焼だんご、うどん、お茶だよ。

家や学校のまわりを探してみよう！

身近な生きもの

★★★ なかなか見られない

★★★ 見られたらすごい

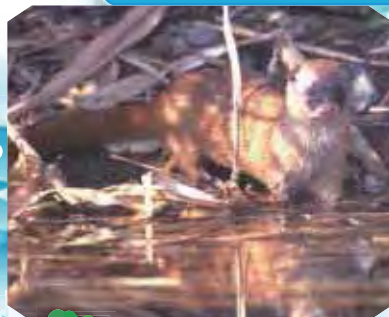
ノウサギ



見られる場所 草地
見られる時期 一年中

耕したばかりの畑に足跡がないかな？おまんじゅうとソフトクリームを2個並べた形だよ。

イタチ



見られる場所 水辺
見られる時期 一年中

林や草はらもすみかだけど、水辺でよく見かけるよ。カエデのような形の小さな足跡をさがしてね。

タヌキ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

家族で生活しています。決まった場所に共同トイレ(ためフン)をつくっているよ。

キジ



見られる場所 草地
見られる時期 一年中

「ケン ケン」と大きな声で鳴くよ。赤い顔に緑の羽はオス、卵を抱くメスは地味な茶色。

カッコウ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 春～夏

「カッコー」と鳴くのは初夏。秋には仲間のツツドリたちとサクラの毛虫を退治します。

モズ



見られる場所 草地
見られる時期 一年中

タカのようなカギ型のくちばしを見て。昆虫や小鳥も捕らえるよ。秋には「キチキチキチ」と「高鳴き」をします。

ヒバリ



見られる場所 草地
見られる時期 一年中

空に舞い上がって大きな声でさえずります。丈の低い草はらが大好き。

ホオジロ



見られる場所 草地
見られる時期 一年中

「チチッ チチッ」とふた声でなきます。冬は草の実を食べるよ。林のへりや疎らな林にすんでいます。

カワセミ



見られる場所 池・川
見られる時期 一年中

水辺の宝石って呼ばれている。小魚を食べるよ。空中にとどまってる飛び込みが得意技。

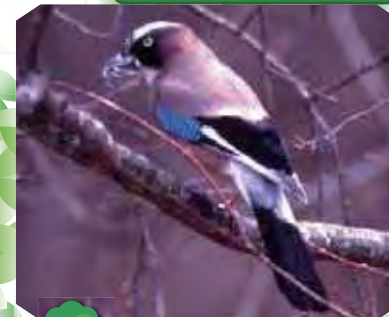
キセキレイ



見られる場所 水辺
見られる時期 一年中

黄色いお腹と黒い背中羽の羽毛が素敵でしょ。「チチンチチン」と鳴きながら水辺を移動するよ。

カケス



見られる場所 樹林
見られる時期 秋～冬

黒くないけどカラスの仲間。「ジェー ジェー」としゃがれ声。ドングリが好物だよ。

ヤマガラ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

昆虫や木の実を食べます。かたい木の実も足で押さえて上手に割ることができるよ。

エナガ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

小さな白い体に長めの尾羽。「ジュリッ ジュリッ」と鳴きながら群れて暮らしているよ。

イカル



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

黄色の太いくちばしが目立ちます。「キキ キョーキー」とゆったりと鳴くよ。

アオジ



見られる場所 樹林
見られる時期 秋～冬

公園や庭にもやってきます。少し暗い木の下で「チチッ」と声が出たらほかかもよ。

シマヘビ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

背中に2本の黒いしまがあるからシマヘビ。ヘビも自然の一員、怖がらないでね。

アオダイショウ



見られる場所 樹林・人家
見られる時期 春～秋

森や草地にもいるけど農家の納屋や屋根裏などにもすんでいるよ。

ヤマカガシ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 水辺・草地
見られる時期 春～秋

水辺が好き。水にもぐれるよ。毒をもっているけど大丈夫。

ニホンヤモリ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 人家
見られる時期 春～秋

夜に窓や玄関灯などを探してね。ガラスや壁に張り付いて虫を探しているよ。

アズマヒキガエル



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林・水辺
見られる時期 春～秋

春先に池や水溜まりに集まって卵を産むよ。ゼリーのような卵を見たことないかな？

アカシジミ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏

はね全体がオレンジ色のきれいなシジミチョウ。雑木林にすみ、昼間は葉の上でじっとして朝と夕方に飛ぶよ。

ミズイロオナガシジミ

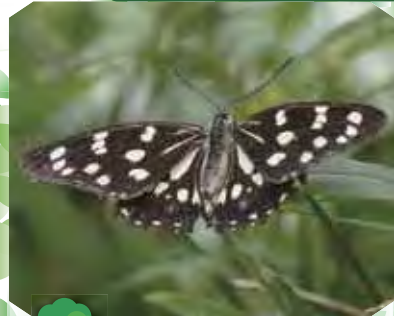


☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏

雑木林にすみ、はねの裏が銀白色をしたシジミチョウ。幼虫は雑木林に多いコナラの葉を食べるよ。

ゴマダラチョウ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 春～夏

はねの黒と白のまだら模様が黄色いストローが目立ちます。雑木林にすみ、樹液に集まるよ。

ヒガシキリギリス



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

草やぶにすんでいます。昼間「ギーチョン」という大きな声で鳴くよ。

チョウトンボ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 池
見られる時期 夏～秋

幅の広いはねは青紫色で、ひらひら飛ぶ姿はチョウのように見えるよ。水草の多い池にすんでいます。

ハグロトンボ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 流れ
見られる時期 夏～秋

はねが真っ黒で体が緑色に輝くトンボ。水草の生えている川にすんでいるよ。

オニヤンマ

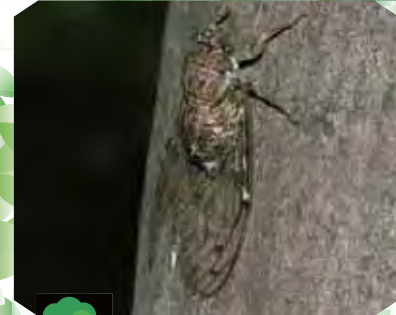


☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 流れ
見られる時期 夏～秋

一番大きなトンボで、きれいな水の流れている小川にすんでいます。オスは流れの上をゆったりきたりしているよ。

ヒグラシ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏

暗い林にすみセミ。明け方と夕方のうす暗いときに「カナカナカナ」という声で鳴くよ。

チョウセンカマキリ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

草地にすみ大きなカマキリ。カマのある足のつけ根はオオカマキリと違ってオレンジ色をしているよ。

カブトムシ

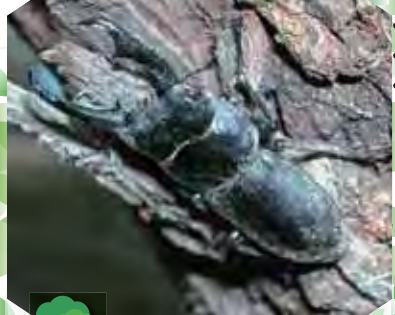


☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏

雑木林の樹液に集まります。オスにはりっぱな角があるよ。幼虫は地面に積もった、くさった葉をたべています。

コクワガタ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏

雑木林の樹液に集まります。幼虫はくさった木をたべるよ。成虫で数年生きています。

ノコギリクワガタ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏

雑木林の樹液に集まります。大きなオスのきば(オオアゴ)は、くの字型に曲がっているよ。

ヤマトタムシ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏～秋

緑色に赤紫色のすじが輝いてとてもきれいです。成虫はエノキの葉を食べるので、雑木林のまわりをよく飛んでいるよ。

ニホンミツバチ

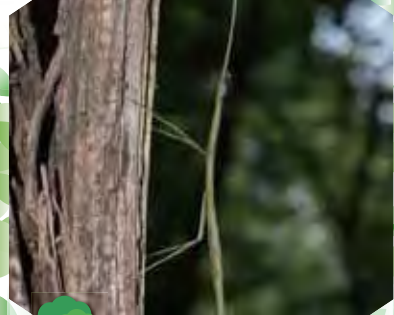


☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 春～秋

昔から日本にすんでいる野生のミツバチ。蜜を取るために飼っているセイヨウミツバチより黒っぽい。木の穴に巣をつくるよ。

ナナフシ



☆☆☆☆
発見難易度

見られる場所 樹林
見られる時期 夏～秋

木の枝そっくりの形をしているよ。昼間はじっとして夜になると動き回って木や草の葉を食べるんだ。

キツネ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 一年中

姿は簡単には見せないぞ。足跡なら見つかるかもね。犬の足跡と間違わないでね。

ノスリ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 秋～冬

木にとまってじっとしているのは獲物を待ち伏せているのさ。なかなか捕れないけど。

ツミ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

ハトよりも小さなタカ。「ピョー ピョピョピョピョ…」甲高い声が聞こえるかな。

オオタカ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 一年中

森の王者。ハトやカモを捕まえるには、広くて豊かな自然が必要なんだ。

フクロウ



見られる場所 樹林
見られる時期 一年中

「ゴロスケ ホーホー」冬には繁殖のために鳴いているよ。森の方角に耳を澄ませてごらん。

アオバズク



見られる場所 樹林
見られる時期 春～夏

青葉が茂り始めるころ「ホッホー ホッホー」とふた声の鳴き声はぼくだよ。大木の穴に巣をつくります。

ヒガシノホントカゲ



見られる場所 草地
見られる時期 春～秋

鱗はつやつやと光っているよ。尾が青いのはまだ子供だね。石や土の乾いたところが好きなんだ。

イシガメ



見られる場所 水辺
見られる時期 春～秋

コンクリートの水辺は苦手。陸との行き来ができないよ。

ニホンアカガエル



見られる場所 水辺
見られる時期 春～秋

1月から3月に田んぼや浅い池に集まって卵を産むよ。探してごらん。

シュレーゲルアオガエル



見られる場所 水辺
見られる時期 春～秋

アマガエルに似ているけれど鼓膜のあたりが黒くありません。「コロコロコロ」と鳴くよ。

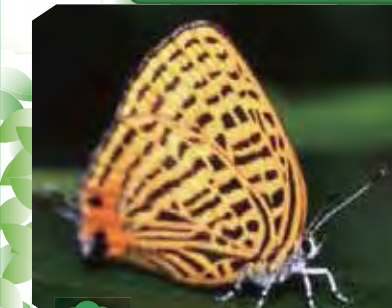
ジャノメチョウ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

ススキ原にすむ大きなチョウです。はねには目玉もよう(蛇の目もよう)があるよ。

ウラナミアカシジミ



見られる場所 樹林
見られる時期 夏

はねはだいたい色で、裏に黒いまだら模様があるシジミチョウ。雑木林にすみ、夕方によく飛ぶよ。

オオムラサキ



見られる場所 樹林
見られる時期 夏

はねを広げると10センチ以上。オスのはねの表側は、青紫色に輝きます。雑木林にすみ、樹液に集まるよ。日本の「国蝶」です。

スズムシ



見られる場所 草地
見られる時期 夏～秋

たけの高い湿った草やぶにすんで、夜「リーンリーン」と澄んだ声で鳴きます。昔から鳴き声を楽しむために飼われているよ。

クツワムシ



見られる場所 樹林・草地
見られる時期 夏～秋

林のへりや草むらにすんでいる大きなキリギリス。夜「ガチャガチャガチャ」ととても大きな声で鳴くよ。

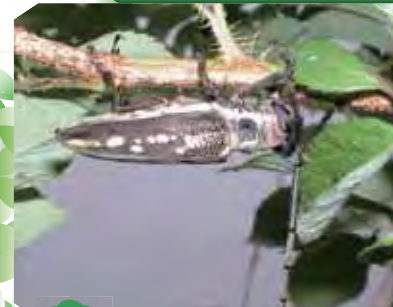
キイトンボ



見られる場所 池
見られる時期 夏～秋

水草の多い池にすんでいるよ。オスでは全身が鮮やかな黄色になってとてもきれいです。

シロスジカミキリ



見られる場所 樹林
見られる時期 春～夏

雑木林にすむ大きなカミキリムシ。コナラやクヌギの木に卵を産み、幼虫は生きている木を食べるよ。

トコロん



見られる場所 所沢市内全域
見られる時期 一年中

好きな食べものは、焼だんご、うどん、お茶だよ。